U9—2026—課題論文

試験問題

注意事項

1. 問題は**2題**あります。**2題とも必ず解答**してください。

2. 解答時間は**3時間**です。

3. 答案用紙の記入について

(ア)　答案は濃くはっきり書き、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるように訂正してください。

(イ)　問題**1題に1枚**(両面)を使用してください。

(ウ)　表側の各欄にそれぞれ必要事項を記入してください。**問題番号欄には、問題1は「1」、問題2は「2」と記入**してください。

(エ)　試験の公正を害するおそれがありますので、答案用紙の切取線より下の部分に氏名その他解答と関係のない事項を記載しないでください。

4. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。

5. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。

6. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	受験番号	氏　　名

指示があるまで中を開いてはいけません。

途中で退室する場合………本試験種目終了後の問題集の持ち帰りを　**希望しない**

問題１

現在、インターネットやSNS等の普及により、誰もが容易に様々な情報にアクセスできるようになったと同時に、根拠のない誤った情報や、意図的に誤った内容を伝える偽の情報等（以下「誤情報等」という。）も容易に拡散され、個人や社会に影響を与えてしまうことが大きな社会問題となっている。

そこで、このような情報があふれる時代において、人々が誤情報等を拡散してしまう、又は誤情報等にだまされてしまう要因としてあなたが考えるものを一つ例示するとともに、情報の発信者又は受信者として、その要因を排除し、情報利用の安全性を高めていくためには、どのような対策を講じていくべきかについて説明せよ。

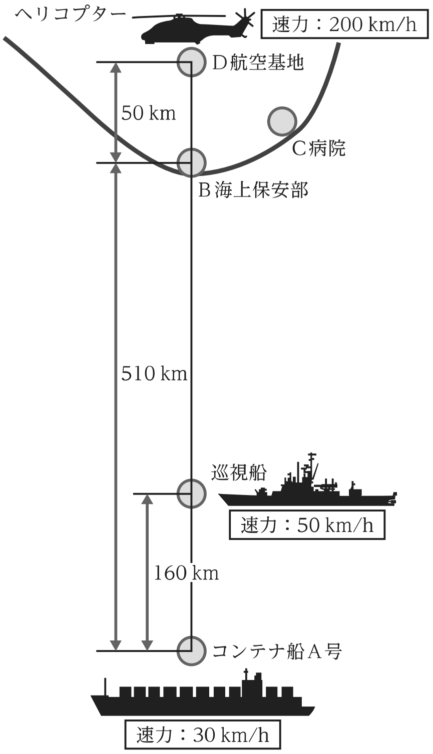
問題２

５月24日午後５時零分頃、コンテナ船Ａ号（以下「Ａ号」という。）から「乗組員１名がひどい腹痛となり、病院での受診を希望している。」との通報がＢ海上保安部にあった。

Ｂ海上保安部はＡ号に対して「Ｃ病院と連絡を取り、Ｃ病院に近いＢ海上保安部方向へ向かうように。」と連絡すると同時に、所属の巡視船に救助発動を指示し、近隣のＤ航空基地に応援要請を行った。

同日午後５時10分頃、Ａ号からＢ海上保安部に「Ｃ病院より、24時間以内に治療が必要と言われた。10分前にＢ海上保安部へ進路を変えたが、速力は30 km/h しか出ないので救助してほしい。」と回答があった。

Ａ号、巡視船及びＤ航空基地所属ヘリコプターの位置関係や能力を右図のとおりとすると、以下の条件下において、どのように救助を完了させるか、救助方法を考え、その救助方法を選んだ理由、及び同日午後５時10分以降の時間的経緯について説明せよ。



＜条件＞

- 救助完了は、Ｂ海上保安部又はＤ航空基地に要救助者が到着したときとし、その後は救急車が１時間以内にＣ病院まで搬送する。
- ５月24日の日没は午後７時20分頃で、翌日の日出は午前４時30分頃である。
- 海上の天候は、翌日の朝に向けて次第に波が高くなり、風も強くなる予報である。

- Ｂ海上保安部は防波堤に囲まれた大きな港の中にあり、Ｄ航空基地は周りを山に囲まれているため、着船や着陸時に波や風の影響はないものとする。
- 巡視船はＢ海上保安部を基地としており、救助発動時はＡ号に近い海域を航行中で、救助の際は、搭載艇を降下して、相手船に横付け後に要救助者を収容し、巡視船に搭載艇を揚収するまでに40分必要である。
- ヘリコプターはＤ航空基地で待機中で、すぐにも離陸可能であり、救助の際は、相手船の上空から機動救難士が降下して要救助者をつり上げるために30分必要であり、燃料消費量の関係で離陸から着陸までの飛行時間は4.5時間を限界とするほか、Ｄ航空基地以外には着陸することはできない。
- 要救助者の移動は速力が０の状態で行い、そのための加速減速に必要な時間は無視できるものとする。

上記条件のほか、各救助手段の能力や状況をまとめると以下の表のとおり。

救助手段等	速力	通報位置までの距離	救　助所要時間	その他
ヘリコプター	200 km/h	560 km	30分	・機動救難士が要救助者をつり上げつり下ろし ・飛行は4.5時間まで ・Ｄ航空基地以外着陸不可
巡視船	50 km/h	160 km	40分	・救助時は搭載艇を降下し、収容後に巡視船に揚収 ・ヘリコプターへの載せ替え時は、機動救難士が要救助者をつり上げつり下ろし
Ａ号	30 km/h	0 km	—	・通報後すぐにＢ海上保安部方向へ向かっている